



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部 活動報告

発行人：支部長 外山 学
益田診療所

ニュースレター No. 4 (2013.9)

[会議報告] 近畿ブロック支部代議員会 (6月30日)

外山 学 (益田診療所/大阪府門真市)

新大阪駅近くの会場で、近畿ブロック支部代議員会が開催されました。その内容を報告します。

(1) 昨年度の事業報告及び決算と監査報告、今年度事業計画及び予算について順に検討を行い、いずれも原案通り承認しました。

昨年度
事業報告

- (1) ニュースレターを2回、学会誌に同封して発行した。(12月、H25.3月)
- (2) 第26回近畿地方会(11月25日、京都テルサ)に際し、補助を行った。
- (3) 「地域支部及びグループ活動にする補助の規定」を定め、計8件に対して補助を行った。
- (4) 幹事会を開催した。(7月29日)
- (5) 代議員会を2回開催した。(9月30日、11月25日)
- (6) 学会本部との連携、意思疎通に努めた。

今年度
事業計画

- (1) ニュースレターを4回、学会誌に同封して発行する。(6月、9月、12月、H26年3月)
- (2) 第27回近畿地方会(9月8日、兵庫医療大学)の円滑な開催に協力し、補助を行う。
- (3) 「地域支部及びグループ活動にする補助の規定」を改定し、補助を行う。
- (4) 都道府県等、地域支部の確立に向けた作業を行う。
- (5) 「家庭医療後期研修プログラム責任者会議」ブロック会の支援を行う。
- (6) 幹事会を開催する。(5月26日)
- (7) 代議員会を2回開催する。(6月30日、9月8日)
- (8) 学会本部との連携、意思疎通を強化する。

(2) 近畿地方会について協議し、来年度は、豊中市医師会主催で、11月30日(日)に千里阪急ホテルで開催すべく準備が進められていることが報告されました。今後、都市部以外で小規模でも開催できるようブロック支部からの補助を、会計状況をみながら毎年少しずつ増やしていくことが話し合われました。

(3) 地域支部及びグループ活動に対する補助規定を見直し、改定を行いました。主な変更点は、申請書に「主催者の概要」記載欄を設けること、本ニュースレターへの報告原稿提出により報告及び公開とする旨を、規定に盛り込んだことです。 (*ページ2に続く)

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県)に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。

ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。

- ・支部長 : 外山学 (学会理事)
- ・副支部長 : 雨森正記 (学会理事)、大島民旗 (学会理事)、戸田和夫
- ・幹事 : 朝倉健太郎、足立光平、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、空地頭一、高木幸夫、武田以知郎、羽野卓三、福原俊一、松村理司、水野融、三ツ浪健一
- ・監事 : 大島久明、澤木政光



(4) 総合診療専門医と学会の後期研修プログラム(v2)について意見交換しました。以下、主な内容です。

- ・これからの超高齢化社会において、病院でも地域でも、総合診療医のニーズは確実に存在する。立場や診療行為を裏付ける意味でも、専門医とすることは必要である
- ・全人的に関わる意識を持てるか否かは、若い時期に作られた価値観、即ち最初の研修環境が重要である。総合診療を目指す医師が周囲に存在することは、領域別専門医を指向する医師にとっても意義が大きい。
- ・研修医が、病院内の各科や地域の様々な資源を回することで、つないだり潤滑油として機能しつつ、みんなで育てていく方向性が良いのではないか。
- ・「総合診療をめざす(興味がある)学生や若い研修医」と「現場」、総合診療マインドを持つ「病院の医師」と「地域」、各々のパイプは未だ不十分であり、今後活動を強化する必要がある。
- ・学会の精神を継承するためには、従来からの認定医の位置づけも重要である。
- ・日本の国民性に合わせ、伝統をリスペクトし、少しずつでも良い方向に、質を高めていきたい。

又、よく聞かれる(外部からの)否定的意見に関しても、ディスカッションを行いました。

1) 若い時は臓器別診療でどんどん侵襲的手技の技量を身に付ければよい、年齢的に円熟してきたら地域医療をすればよい。地域医療のノウハウは、現場でやっていたらすぐ身につく?

→地域医療を行うにあたり要求される内容は、一昔前より遙かに多様化・複雑化・高度化している。時間をかければ身に付けられるかもしれないが、少なくとも初期研修2年間では不可能なことは証明されている。昔のように不十分な状態で地域に出て、現場での成長を期すのはリスクが高い。

2) 「人頭割など、厚生労働省が目論む管理医療の道具にされるのではないか?

→厚労省に管理意欲があることは確かだが、それをもってニーズのあるものを否定する理由にはできない。新たな専門医制度を、執拗に医師の地域偏在解消のツールに使おうとした例など、厚労省の管理意欲に晒されているのは領域別専門医も同様である。問題を矮小化せず、医療界一体となって対抗すべきである。

【勉強会報告】第27回プライマリ・ケアを語ろう・おおさか勉強会(7月28日)

木戸 友幸(木戸医院/大阪市東淀川区)

プライマリ・ケア連合学会大阪地区勉強会である本勉強会が、大阪大学中之島センターで開催された。今回は、「あなたの診療所に外国人が受診したら!」と題し、英語対応の外国人患者への対処の仕方について、世話人の一人でもある木戸が講演した。

自らの持つ英語力を100%生かすにはどうするか。それには、まず外国人患者への第一声に、ゆっくりした簡単な日本語を使うことを提唱した。これで、医師側の焦りがとれ、心にゆとりができる。

次に、患者の早口の英語を、ゆっくりした分かり易い英語に変える必要がある。このときは、Listen to me first. と相手の注意をこちらに向け「ゆっくり、簡単な単語で喋ってくれないと、理解できない。理解できないと、診断、治療ができない。」と明確に伝えるのがよい。この最初の医師-患者間のやりとりを、寸劇で実演した。患者役を、英語の堪能なイラン人のファクレジャハーニ医師に演じてもらった。外国人患者の満足度は、彼らの医療文化(医療の社会・文化的背景)をこちらが理解することによって上がる。その実例を挙げ、各国の医療文化を習得するコツについても言及した。最後に、英語での紹介状や証明書の書き方について解説した。

ファクレジャハーニ医師には、外国人患者と日本人医師の関係性をいかにうまく保つかについての講演をしていただいた。講演後の討論は、日本語での質問には日本語で、英語での質問には英語で答えることにした。すると、英語での質問が予想外に多く、今更ながら関西人の積極性、あるいは「ノリの良さ」を再認識した。

本会恒例の、管理栄養士とホテルシェフによる健康ランチでは、「糖の吸収を遅らせ上手に糖質を食べる」をテーマにした。初登場のパスタも、講師の先生のお国料理スープやシシケバブも加わり、非常に好評であった。



【勉強会報告】P★C SONIC～関西若手ジェネラリスト・フェスティバル～ (6月2日)

中山 明子 (大阪家庭医療センター／大阪市西淀川区)

「ジェネラリストの価値を認識し、明日のジェネラリストを考えよう」という目的で、学生から20年目以上の医師までの多彩な参加者が82名集まり、ジェネラリストを増やしていくためにキャリアを参加者全員で考えていきました。

『Generalist ★ Collection 2013 in Kansai』では、診療所／小病院／大病院／大学／行政というさまざまな立場の5名の方々が、自分の出自、日常の仕事と興味を持っていること (スペシャル・インタレスト) を発表しました。

『Generalist Hunter!』では約10人のグループに別れ、それぞれのグループで診療所・小病院／中・大病院／大学・行政などという場ごとにどんなジェネラリストが存在し、どのような仕事をしているのか、スペシャル・インタレストに関するディスカッションを行いました。そのスペシャル・インタレストが家庭医と総合診療内科でどちらがより得意なのか、共通しているかを図にしていきました。現在のジェネラリストの仕事を考えることで、ジェネラリストの多様性と面白さがつかめたのではないかと思います。松村理司先生 (洛和会 総長) には「超高齢社会のジェネラリストは clinician-educator で!」という基調講演をして頂きました。ジェネラリスト/教育者の先駆者として歩まれた歴史からプライマリ・ケアの変遷を感じました。1日を通じて、現在・過去・未来のジェネラリストを考え、ジェネラリストの魅力を感じ、学生からベテラン医師までの家庭医と総合内科医の交流の場ができたのではないかと思います。



【勉強会報告】万葉衆 (奈良家庭医療研究会) (6月23日)

朝倉 健太郎 (健生会 大福診療所／奈良県桜井市)

奈良家庭医療研究会第13回「万葉衆」が明日香村国保診療所にて開催、医学生3名、看護師1名も交えた16名でディスカッションを深めました。今回のテーマは「私とクスリの苦い思ひ出」、「フリースタイル」の部と合わせて11人のプレゼンターが多種多様な話題提供を行ってくれました。「目からウロコ」の連発だったのですが、いくつかのパールをご紹介します。○芍薬甘草湯による低K血症に注意、定期服薬は基本的にダメ。特にセナ、グルココルチコイド、利尿剤との併用で相乗効果



あり ○ポリファーマシー、処方カスケード (薬剤の副作用に対して新たに対症療法を行うことで服薬数が膨大になること) を避け、薬剤による有害事象を減らすこと! ○慢性下痢が続く場合、PPI など薬剤をチェック、collagenous colitis も鑑別を! その他、学生から「病院実習で専門科を回るときも、『解釈モデル』を考えることで見え方の幅が変わりました!」という嬉しい報告、循環器領域の研修を行う後期研修医から「心不全の終末期をどのように診るか」、地域で活躍する看護師から「あいりん地区の実情」、その他「初めて診断した関節リウマチ」「十二指腸潰瘍をきたした12歳の少年」など話題満載でした。

学生からベテラン医師まで、また家庭医、プライマリ・ケア医、病院総合医らが敷居なく集う「万葉衆」、是非、お越し下さい。次回は2013年秋開催予定です!

【ご案内】地域支部・グループ研究活動に対する補助の公募

(2013.6.30 一部改定部分を下線で表示)

近畿ブロック支部では、府県単位での地域支部活動や、さまざまなグループ活動を積極的に支援するために、補助を行っています。申請用紙(事務局にご請求下さい)は簡便に作っておりますので、お気軽にご応募下さい。今後も適宜改訂していきますので、より良いしくみにするためのご意見などもお願いいたします。

(1) 補助の要件

- 1) 主催者が日本プライマリ・ケア連合学会(以下、学会)の会員であること
- 2) 近畿ブロック支部の活動の趣旨に沿っていること。ただし、単なる懇親会は補助の対象外とする。

＜参考＞ 日本プライマリ・ケア連合学会 近畿ブロック支部会則

第3条 本会は、近畿ブロックにおけるプライマリ・ケアに関する学術の進歩、知識の普及ならびに人材の育成を図り、プライマリ・ケアの充実および向上に寄与することを目的とする。また、人々が健康な生活を営むことができるように、地域住民とのつながりを大切にした、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動を行うことを目的とする。

- 3) 学会本部や製薬会社など、他の主体からの補助や協賛と重複していないこと。(大学や病院、医師会等の関係団体による支援は可)
- 4) 補助金の振り込みを受けるための銀行口座を有していること(個人名義で可)
- 5) 学会近畿ブロック支部から補助を受けていることについて、案内文書に記載するか当日アナウンスを行うこと。可能であれば、学会への入会勧奨をすることが望ましい。

(2) 申請の手順

- 1) 申請にあたっては、所定の書式に準じた申請書を提出すること。開催前の申請で、その時点で記載及び添付不可能な項目がある場合は、会合終了後に遅滞なく当該事項について提出すること。尚、補助金の使途を明記し、対応する領収書のコピーを添付すること。
- 2) 申請書2枚のうちの1枚は、学会本部へ「専門医・認定医研修講座」又は「認定薬剤師研修講座」の企画書を提出している場合(すなわち専門医・認定医、認定薬剤師の単位を申請している場合)、そのコピーをもって代えることができる。
- 3) 報告の形式は、近畿ブロック支部ニュースレターへの原稿提出とする。又、交流推進のため、地方会での一般演題発表も歓迎する。

(3) 補助額

- 1) 基本活動補助費(同一主催者には年1回のみ)として、学会会員10名未満の会の場合1万円、学会会員10名以上の場合3万円を補助する。
- 2) 会合1回ごとのオプションとして、都道府県など一定地域(あるいは職種等の一定範囲)の全会員に案内を送付する場合、ブロック支部事務局より名簿を提供し、当該府県(職種)分の案内人数分の郵送料(80円/人)を補助する。尚、名簿の提供は、郵送物発送のための必要最低限の形式とし、申請者は「当該勉強会の案内以外の目的で名簿情報を利用しない」旨の文言にサインするものとする。

支部からのご連絡

ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております! 又、会員の方の関係した講演会等の案内欄を設けております。掲載を希望される方は、1)日時、2)会場、3)講演会名、4)講演会の対象者、5)演題と演者、肩書き(主要なもの1つ)、6)主催者(及び共催者)、7)連絡・問い合わせ先、8)HP(あれば)、9)事前申込の要否、10)参加費用、11)取得可能単位を事務局(あゆみコーポレーション)までメール又はFAXでご連絡下さい。尚、原稿締切日とニュースレター発行日は、2月20日締切→3月下旬発行、5月20日締切→6月下旬発行、8月20日締切→9月下旬発行、11月20日締切→12月下旬発行となっております。学会及び支部の精神に則り、会員に役立つ情報提供をよろしくお願いいたします。